

TIC NEWS

vol. **134**
2020.1

(公財) とやま国際センター

〒930-0856 富山市牛島新町5-5

インテックビル4F (タワー111)

TEL (076) 444-2500

FAX (076) 444-2600

E-mail: tic@tic-toyama.or.jp

URL: <http://www.tic-toyama.or.jp>



令和元年度富山県国際交流部門功労表彰・第24回とやま国際草の根交流賞受賞者の皆様

令和元年度富山県国際交流部門功労表彰 第24回とやま国際草の根交流賞表彰式

去る11月2日、パレブラン高志会館において、富山県との共催により、(公財)とやま国際センターの創立35周年記念式典を開催し、その中で“富山県国際交流部門功労表彰”及び“とやま国際草の根交流賞”の表彰式を行いました。

第4回アセアン講座「黄金の国ミャンマーの“おもてなし”」

日時：令和元年10月19日(土) 13:30～15:00

場所：とやま国際センター ― 研修室A

講師：ナン ミャ ケー カイン氏 (東京外国語大学非常勤講師)



アセアン諸国について理解を深めることを目的として開催する本講座は、今年で4回目となります。今回は、ミャンマー人の出稼ぎ労働者等を最近の研究テーマとされ、『ミャンマーを知るための60章』なども執筆されている、東京外国語大学の非常勤講師のナン ミャ ケー カイン氏を講師としてお迎えしました。

成田から首都ヤンゴンには直行便も飛んでおり、時差も日本とは二時間半、観光であればビザも不要で、手軽に行き来できるようになりました。首都ヤンゴンにはミャンマーの総人口5,300万人のうちの約13%が住んでいます。二つのアジアの大国、中国、インドに挟まれたミャンマー。インドとの国境は高地になりますが、北方の隣国、中国からは中国製品が大量に入り、ミャンマーでは中国製の中古スマートフォンを持つ人がたくさんいます。近年ミャンマーは中国の大規模投資の対象になり、のんびりしたミャンマー人にも中国は脅威と映っているかもしれません。

日本とミャンマーの共通点は米が主食であることです。ミャンマーでは細長いインディカ米が食べられ油を多く使ったミャンマー料理によく合います。そして麺類を頻繁に食べることも日本と似ています。ただし、「モヒンガー」などの麺類は、スプーンで麺を切りながらスープと一緒に食べるというのがミャンマーならではの食べ方です。魚は川魚をよく食べ、雷魚、ナマズ、川エビなどが人気です。



ミャンマーの主食は“米”

また天候不順による自然災害が多いことも日本と似ています。5月から10月はミャンマーでは雨期となり、二時間雨が降り続くといった間に道が冠水し、膝まで水が浸かるというのは珍しいことではありません。そして道路、ダムなどのインフラ整備はまだまだ開発を必要としています。

ミャンマー人は“おもてなし”を大事にします。久しぶりにあった親類・友人には食べきれないほどの料理でもてなし、帰りには親類の分までお土産を持たせます。またミャンマーの路地には“水がめ”が所々に置いてあり、喉を潤したい人は自由にその水を飲んでもよいことになっています。近所の人は誰ということなく自発的にその水がめに水を補っています。信仰心の強い仏教徒が多いミャンマーでは水を寄付することで功德を積むことができると考える人が多いのです。そして、仏教と自然信仰が並存していることも日本と似ており、仏壇の横に神棚が置かれているというのはミャンマーではよくある風景です。

日本と異なる点は多民族国家であることです。ミャンマーには135の民族がいると言われています。よくニュースで耳にするロヒンギャ問題ですが、ミャンマーでは民族間の問題はロヒンギャに限らずいろんな地域に、そして昔から現在まで常に存在してきた問題という認識です。

近年ミャンマーでは日本語学習熱が高まっています。ミャンマーの識字率は高く、教育熱心な国民性もあり、たとえ貧しくても働きながら学ぶ人も多いのが特徴です。カイン氏もヤンゴンで、自身がライフワークと称する「ミャ日本語学校」の運営に代表責任者として取り組んでおられます。「豊かな人と苦しんでいる人の間を取り持てるようなことがしたい」とずっと開発経済を研究されてきた先生の思いが込められた活動です。今回はメディア等からは伝わらないありのままのミャンマーについて知ることができる貴重な機会となりました。

国際交流フェスティバル2019

日時 令和元年11月10日(日) 10:30～16:30

場所：富山駅自由通路・富山駅前CiCビル内(1、3F)

主催：国際交流フェスティバル2019実行委員会

共催：富山市民国際交流協会、(公財)とやま国際センター、JICA北陸



23回目となる国際交流フェスティバルが開催されました。富山駅会場では開会式の後、ロシアの子どもたちによる踊りが披露されたほか、とやまの国際交流・協力団体の活動紹介がありました。またCiC会場ではいろんな国の歌と踊りなどを披露するワールドステージやバザー、民族衣装や和服、甲冑の試着体験などがありました。ステージの最初のプログラムの、当センターが主催する外国人カラオケ大会では、9カ国の外国人が自慢の歌を披露され、大いに会場が盛り上がりました。当日は約5,000人の人出でにぎわいました。

外国人のための日本語ボランティア養成講座

【砺波】

日時：令和元年9月21日(土)～11月23日(土)

全5回 10:00～12:00

場所：砺波市文化会館

【入善】

日時：令和元年9月28日(土)～12月7日(土)

全5回 10:00～12:00

場所：入善町民会館



当センターでは地域の日本語教室で外国人の日本語学習を支援するボランティアの育成を目的として、平成10年から「外国人のための日本語ボランティア養成講座」を開催しています。今年度は砺波市と入善町で、日本語教育機関トヤマ・ヤポニカの田上氏を講師に迎え、各5回の講座を行いました。

講座では、地域に住む外国人住民が日常生活でどのような悩みを抱えているかなどを理解することから始まり、日本語学習支援に必要な知識や心構え、対話を中心とした活動のスキル等を身につけていきました。さらに実習では、外国人学習者とともに、実際の「対話活動」を体験。講座を通して相互理解を深め、地域のコミュニティを活性化していく大切さを学びました。

講座を修了された受講生からは「富山に住む外国人の方々の実情を知ることができ、自分が一市民としてどのような“生活のお手伝い”ができるのかを考えるよい機会になった」等の感想が聞かれました。講座修了生の中には、早速、地域の日本語教室の活動に参加され、身近な外国人の日本語学習支援に携わられている人もいます。

日本語ボランティアスキルアップ研修会

日 時：令和元年10月26日(土)13:30～15:30

場 所：環日本海交流会館 大会議室

テーマ：「ベトナム籍住民と共に歩むために

ーベトナム人の言語と学びを理解するー」

講 師：金沢大学国際機構 准教授 松田 真希子 氏



近年、ベトナム人の日本語学習者が増えています。ベトナム人には日本語は覚えにくい言葉だと言われており、ボランティアがベトナム人の日本語学習を支援する際にも様々な困難点があると言われてしています。

講師の松田氏は、大学院生の頃、姫路でインドシナ難民支援に関わられたことをきっかけにベトナム人への日本語教育に関わるようになりました。その後、長岡技術科学大学留学生センターでは多くのベトナム人留学生の指導をされ、ベトナム人の日本語学習者に特徴的な学びの傾向について研究されました。

松田氏はベトナム人の日本語学習困難点として、音声構造、文法など言語特性上の相違があることを説明され、忙しい日常生活の中で学習へのモチベーションが低くなりがちな学習者要因についても説明されました。さらに、教師や目上の人を尊敬し、また人間関係を円滑にするには、ときには嘘も方便と考えるベトナム人独特の価値観などについても紹介されました。

参加者からは「ベトナム語の特徴、ベトナム人気質を知ることができ、今後のボランティア活動に参考になった」などの声がありました。またベトナム人の参加者からは「地域の教室では日本語そのものの学習もさることながら、日本での生活・文化についてボランティアの方から学んだことがとても有益だった」という学習者としての体験談も聞くことができました。

(公財)とやま国際センター創立35周年記念式典

令和元年11月2日(土)、パレブラン高志会館において、国会議員、県議会議員、市町村長などのご来賓をはじめ、多くの賛助団体、賛助会員、国際交流団体の皆様のほか、県民の皆様のご列席のもと、富山県との共催により、(公財)とやま国際センターの創立35周年記念式典を挙行了いたしました。

当日は、令和元年度富山県国際交流部門功労表彰及び第24回とやま国際草の根交流賞の贈呈を行いました。併せて、富山県総合政策局の久崎国際課長から、県が9月に策定した「富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン」についての説明と創立35周年記念多文化共生講演会を開催しました。

〈石井理事長(富山県知事)式辞(要旨)〉

(公財)とやま国際センターは昭和59年の設立以来、県民の皆様にかかれた国際交流機関として着実に発展し、この度35周年の節目を迎えました。

富山県では中国遼寧省など友好締結を結ぶ4つの海外自治体をはじめ、世界の各国・各地域との間で、経済、観光、芸術文化、環境など様々な分野での交流・協力を積極的に進めてまいりました。

一方、近年、県内で暮らす外国人の方が増加するなか、令和元年4月には、新たな在留資格「特定技能」が創設され、今後、外国人住民数のさらなる増加が見込まれていることから、当センターの担う役割はますます重要になるものと考えています。

また、県では、これまでの「多文化共生の推進」の観点に加え、新たに「外国人材活躍」の観点を盛り込んだ「富山県外国人材活躍・多文化共生推進プラン」を策定したところであり、今後、市町村や関係機関等と連携して、日本人にも外国人にも暮らしやすい多文化共生の地域づくりを一層推進するとともに、外国人材が活躍できる環境の整備を進めることとしています。

この35周年を機に、今後とも地域や時代のニーズに対応した国際交流や国際協力、多文化共生事業に全力で取り組んで参りますので、皆様がたの一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

創立35周年記念多文化共生講演会

“出会いこそ、生きる力”

講師：サヘル・ローズ氏(女優、タレント、イラン出身)



女優、タレントとして著名なサヘル・ローズさんをお招きし、創立35周年記念多文化共生講演会を開催しました。幼少時代を児童養護施設で過ごされ、8歳で養母と来日されたサヘルさん。様々な苦悩を乗り越えてこられたサヘルさんの話に、涙ぐみながら話を聞く人の姿も見られました。

サヘルさんは、「自分の横で苦しんでいる人に気付いたら、歩み寄り、ひと声かけてみてください。それだけで救われる人がいるのです。」「明日があるかわかりません。自分を大事にして、今日を精一杯生きましょう。」と話されました。サヘルさんからの熱いメッセージに、会場に集まった約200人の皆さんは真剣に耳を傾けていました。

令和元年度富山県国際交流部門功労表彰及び第24回とやま国際草の根交流賞受賞式

受賞者は以下の皆さまです。

ー富山県国際交流部門功労表彰ー

【個人】

栗三 直隆 さん

多年にわたり、富山県日中友好協会の要職にあって、訪問団の派遣や交流会開催等の友好親善事業に努めるとともに、講演会の開催や中国芸術文化紹介、中国語学習等による相互理解の促進に尽力するなど、富山県と中国との友好交流の推進に寄与している。

ーとやま国際草の根交流賞ー

【個人】

石野 まり子 さん

富山市民国際交流協会の理事・総務企画委員長として、「国際交流フェスティバル」や「新春国際交流のつどい」などの国際交流・多文化共生活動の企画運営に積極的に携わるなど、指導的役割を果たしている。また、増加する外国人に対応し、日本語を教える人材を育成する日本語ボランティア養成講座に携わるほか、秦皇島市との友好交流を行う北戴河の会のメンバーとして活発に活動するなど、国際交流の推進に貢献している。

折谷 雅実 さん

富山県日中友好協会の専務理事・事務局長として、「とやま日中県民の集い」などの事業の充実、組織の強化を図った。特に、従来、統一化・標準化されていなかった県内地区の日中友好協会について、富山県日中友好協会を頂点とした連合体として一体化・相互連携を図り、県内で初めて、全国の日中友好協会としても初めて、非営利活動法人の資格を取得して組織の強化に熱心に取り組むなど、中国との交流を図るための基盤強化に貢献した。

【団体】

砺波市トルコ友好交流協会

これまで6回に亘ってトルコ・ヤロバ市を訪問し、ヤロバ市や駐日トルコ共和国大使館等から来客があった際には、歓迎交流会の開催や、チューリップフェアの会場案内を実施している。特に、平成3年8月のトルコ北西部地震発生の際には、募金箱設置や街頭募金を行うなど、いち早く支援に取り組み、ヤロバ市消防署の再建に大きな役割を果たすなど、日本とトルコ共和国両国の相互理解や友好交流に貢献している。

【団体】

太閤山日本語グループ

多年にわたり、日本語教室の開催を通して外国人の日本語支援に努めるとともに、地域の日本人住民と外国人の相互理解や外国人の生活支援に尽力するなど、国際交流・多文化共生の推進に寄与している。

ダルマ・ラマ さん

射水市において、仏画教室の主宰や定期的な料理教室により、仏教と曼荼羅の世界、ネパールの食生活・文化などを、県民に広く紹介している。また、平成27年のネパール大地震ではいち早く募金活動に取り組み、その復興に役立てたほか、それをきっかけとして、富山ネパール文化交流協会を設立して、会長として活発な活動を実施するなど、日本とネパールの相互理解と友好親善に貢献している。

廣川 雅人 さん

富山県舞台技術研究会の理事として、長年にわたり音響会社において培ってきた舞台音響制作等に関する専門技術を、国際交流事業に積極的に役立て、その優れた技術力、高いコミュニケーション能力により、出演者らが安心して舞台に臨める環境を作り上げている。こうした努力により、海外へ富山の舞台水準の高さを示して国内外の参加者から高い評価を得るなど、海外における日本理解の深化、国際交流に貢献している。



〈(公財)とやま国際センターのあゆみ〉

11月24日 昭和59年	11月27日 昭和59年	6月1日 昭和60年	9月12日 昭和62年	1月23日 平成2年	4月1日 平成6年	3月30日 平成7年	2月26日 平成8年	11月2日 平成13年	2月10日 平成15年	4月1日 平成16年	3月10日 平成17年	4月1日 平成23年	6月18日 令和元年
立(財)とやま国際センター設立(理事長 原谷敬吾)	所開き	県森林水産会館2階で事務所を富山県民会館4階に移転	事務所をマリエとやま6階に移転	地域国際化協会として自治大臣認定	富山県海外協会を統合し、旅券事業部門を設置 新理事長に中沖富山県知事就任	特定公益増進法人として富山県知事認定	事務所をタワー11ビル4階に移転	文部科学大臣より、留学生受入れ制度100年記念表彰	日本海学推進機構 設立	富山県大連事務所 開設	新理事長に石井富山県知事就任	公益財団法人へ移行	富山県外国人ワンストップ相談センター開設

“いつか世界を変える力になる”
～世界を変えてきたのは、いつの時代も、たったひとりの強い想いだ～

2020年度JICA海外協力隊春募集が始まります！

募集期間：2020年2月20日(木)～3月30日(月)正午(予定)

JICA海外協力隊とは、開発途上国の人々と共に生活し、相互理解を図りながら、技術や経験を生かして人々の自助努力を促進させる形で活動を展開していく海外での協力活動です。

※募集日程等の変更の可能性もありますので、

詳細については、WEB サイトをご覧ください。

応募は原則ウェブ応募です。募集要項に加え、説明会キャラバン、WEB説明会、OB/OGのビデオ相談、活動体験談等の案内が掲載されています。

職種 計画・行政・公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、
人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野

☆富山県デスクでは、個別相談を受け付けています。(9:00～17:45)

来訪の際は、事前にお問い合わせください。

【応募に関するお問い合わせ・相談窓口】

* JICA北陸 富山県デスク (担当：吉田)

〒930-0856 富山県富山市牛島新町5-5 インテックビル4F (公財)とやま国際センター内

Tel：076-464-6491 / E-mail：jicadpd-desk-toyamaken@jica.go.jp

* JICA海外協力隊ウェブサイト：<https://www.jica.go.jp/volunteer/>



JICA海外協力隊からの現地レポート

今回はラオスから届いた青年海外協力隊員 熊本 有沙 さんからの便りをご紹介します。

サバイディー (こんにちは)。ラオスには穏やかで優しい人々の笑顔と笑い声があちこちにあふれ、自然とともに生きてきたラオス人から毎日いろんなことを教わるばかり。私は今、首都中心から車で20分ほどの場所にある緑の多いセンターの敷地内で暮らし、天然染色と伝統織物の施設で活動しています。染色スタッフが庭で取った材料などで絹糸を丁寧に染めあげ、洗って伸ばして干して、その糸を織りスタッフが一段一段こつこつと織っていく。難しい柄だと1ヶ月ほどかけてようやく1枚が完成するものもあります。本来ラオス人が自分たちの生活のために作ってきた伝統的な布をこれからも残して伝えていく場所、そして地方の女性たちの生活を支える場所です。新しいものを作るだけでなく、ラオスの美しい伝統を守りながら、ここにいるスタッフ全員がやりがいと誇りを持って楽しく働ける環境作りのサポートができれば嬉しいです。



熊本 有沙さん(左)

派遣国：ラオス人民民主共和国

職種：デザイン

派遣期間：2019年1月～2020年1月

配属先：ホアイホンセンター

Voices from the world ～アメリカ合衆国 ワシントンD.C.～

世界の富山ファンからのメッセージ

小林 知代 さん (ワシントンコア 代表)

Q. 今、どんなお仕事をされていますか？

A. ワシントンコアという調査・コンサルティング会社を立ち上げ、25年になります。日本企業や日本政府を対象にさまざまなグローバル化を支援しています。米国は世界最大の市場、そこにチャンスを求め、日本企業が日夜挑戦しています。政権が交代するごとに政策が大きく変わり、規制も50州異なることが多く、米国で成功するのは簡単ではありません。米国の複雑な市場の仕組みをひもとき、日本の政府や企業に市場で勝つためのアドバイスをしています。ワシントンDCは、政治の街だけではなく、新しい技術やチャンスがたくさん生まれる経済の街として「東のシリコンバレー」とも呼ばれています。知的刺激あふれる当地で、25名の社員と日米の間に立つ仕事にチャレンジできるのはありがたいことだと思っております。



ご主人と小林さん

Q. 近況について教えてください。

A. 毎日いろいろと楽しいことに挑戦しております。月に一度のブッククラブに行くのが大好きなイベントの一つです。持ち回りでお友達の家に集まり、本のテーマにあったお食事とワインを片手に、1冊の本について議論します。日本語の本も大好きです。今最もはまっているのが向田邦子さんの作品。庶民の昭和史と言われる話は私の記憶にある日本とイメージが重なり、懐かしく、恋しく、おかしさとさみしさが混じった何とも言えない感情が込みあげます。芸術も大好きで、美術館、博物館に足を運びます。最近、オペラ通のお友達とともに、『オセロ』と『魔笛』を当地オペラ座ケネディセンターで鑑賞しました。また、健康のためジョギングもしています。私の夢は魚津の蜃気楼マラソンに出ること！クリスマス休暇には主人の実家マサチューセッツで大家族が集まります。また八村選手の試合（プロバスケットボール：ワシントンDCチーム）に近く観戦に行く予定です！



ブッククラブのメンバーと

Q. 富山とはどんな結びつきがありますか？

A. 魚津市の出身で、魚津高校を卒業しました。富山は誇れる故郷です。ありがたいことに毎年必ず帰省することができて、家族やお友達にあたたかく迎えてもらっています。4人の子供たちも魚津市の小学校・中学校と体験留学をさせていただき感謝しております。立山連峰を眺めるたびに、近所のお風呂やさんに行くたびに、おいしいお魚を食べるたびに、ああ今度生まれてくるなら、また富山県に生まれたいと心底思います。

Q. 最後に富山の人に一言メッセージをお願いします。

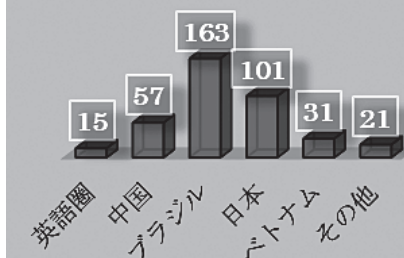
A. 故郷があることは幸せなことです。思い出されるのは、亡き母とともに、東京の大学の入学式に行ったときのことです。電車の中で方言で話しかける母に恥ずかしい思いをしました。「あんたら、がんばらんやだめやちゃ」今となっては、富山弁は私の一生の宝物です。

Toyama Foreign Resident Center NOW !

「富山県外国人ワンストップ相談センター」が6月18日に当センター内にオープンして以来5か月が過ぎ、当センターには延べ14カ国の国籍の方々から、入管手続き、社会保険・医療、雇用・労働、子供の教育等に関する相談が11月末現在で388件寄せられています。昨年度のTICの相談事業の総相談件数74件と比較すると現時点で大幅に上回っています。

また、相談を受けるにつれて富山県在住の外国人の方々がどのような生活を送っているのかも少しずつ垣間見えてきて、相談センターにおいては、求められるサポートとはどうあるべきかについて考える毎日が続いています。今後とも開所当初からの心構えの一つとしている、相談者に『寄り添う』を心がけ、さらに多くの方々にご利用いただけるよう努めてまいりたいと考えています。

相談者国籍別集計



豆鼓炒鶏 (ダオシーチャオガイ)

豆鼓(トウチ)は黒豆に酵母、塩、酒などを加えて発酵させたものです。香港の家庭料理は豆鼓を使う料理がたくさんあります。鶏肉と一緒に炒めたり、豚肉(特にスペアリブ)に漬け込んで煮たり、肉詰めや魚の蒸し料理の味付けとしても使います。簡単に作れて、色々な材料と合わせやすく、コクと旨味たっぷりの豆鼓。ご飯が進むのが人気の秘密です。

～作り方～

1. 鶏肉を一口大に切る。
2. タマネギを薄切り、長ネギは斜め切り、ショウガは適当な大きさにスライスし、ニンニクはみじん切りにしておく。
3. フライパンに油を熱し、鶏肉を炒める。大体火が通ったら取り出しておく。(完全に火を通すと肉が硬くなるので炒めすぎないこと)
4. 3のフライパンでニンニク、ショウガを弱火で炒める。香りがでたら、タマネギ、長ネギ、豆鼓醬を入れて炒める。
5. 香りが立ってきたら、鶏肉と酒を入れる。強火で肉に完全に火が通るまで炒める。
6. 器に盛りつけ、小口切りしたネギを散らして、出来上がり。



香港出身
ヤン ワイワ さん
お薦め料理！



～材料～ (2人分)

鶏もも肉1枚 …… 約200g
タマネギ …… 1/2個
長ネギ …… 1本
細ネギ(小口切り) …… 適量
ショウガ …… 30g
ニンニク …… 1片
豆鼓醬 …… 大さじ2
酒 …… 小さじ1
油 …… 適量

TICからのお知らせ

これからの行事予定

国際交流人材バンク通訳者セミナー

“通訳ガイドというお仕事”

1月11日(土) 13:00～15:00

とやま国際センター研修室A

講師：島崎 秀定 氏 (全国通訳案内士)

日本海学講座

1月11日(土) 14:00～15:30

高岡市生涯学習センター503研修室

(ウィングウィング高岡内)

「変わりゆく？ 富山湾のさかなたち！」

稲村 修 氏 (魚津水族館 館長)

日本海シンポジウム

富山湾から探る未来の海

—持続可能性への展望—

2月15日(土) 13:30～16:30 北日本新聞ホール

○基調講演「気候変化に適応した持続的沿岸漁業」

講師：桜井 泰憲 氏

((一財)函館国際水産・海洋都市推進機構

函館頭足類科学研究所長、北海道大学名誉教授)

○パネルディスカッション

コーディネーター：秋道 智彌 氏

(山梨県立富士山世界遺産センター所長、
日本海学推進機構会長)

パネリスト：

桜井 泰憲 氏 (シンポジウム基調講演講師)

小境 卓治 氏 (氷見市立博物館学芸員(前同館 館長))

前川 美湖 氏 ((公財)笹川平和財団海洋政策研究所
海洋政策研究部主任研究員)

ベトナム語版What's Happening, メールマガジン始めました！

富山県に在住するベトナム人が年々増えています。当センターでは10月よりベトナム語版イベント情報誌What's Happeningの発行を行っております。またベトナム語のメールマガジンの配信も始まっています。ベトナム語版メールマガジンの配信を希望される方は下記アドレスにメールをお送りいただければ登録可能です！

enewsvi@tic-toyama.or.jp

イベント情報誌「What's Happening」隔月発行
メールマガジン月1～2回配信

(日、英、中、韓、露、伯、越 7カ国語対応 詳しくはHPを！)

(公財)とやま国際センター賛助会員募集及び ご寄付のお願い

公益財団法人とやま国際センターは、民間レベルの国際交流、国際協力を推進するため、様々な事業に取り組んでいます。TICの事業にご支援いただける賛助会員の方を募集しています。

年会費(1口) 個人会員 3,000円
団体会員 30,000円

また、財政基盤の充実を図るため、ご寄付についてもよろしくお願い申し上げます。